

IV 介護の状況

1 要介護者等のいる世帯の状況

介護保険法の要支援又は要介護と認定された者のうち、在宅の者（以下「要介護者等」という。）のいる世帯の世帯構造をみると、「核家族世帯」が40.3%で最も多く、次いで「単独世帯」が28.3%、「その他の世帯」が18.6%となっている。

年次推移をみると、「核家族世帯」の割合は上昇傾向であり、「三世帯世帯」の割合が低下している。（表16）

表16 要介護者等のいる世帯の世帯構造の構成割合の年次推移

（単位：％）

年次	総数	単独世帯	核家族世帯	(再掲) 夫婦のみの 世帯	三世帯世帯	その他の 世帯	(再掲) 高齢者世帯
2001(平成13)年	100.0	15.7	29.3	18.3	32.5	22.4	35.3
'04(16)	100.0	20.2	30.4	19.5	29.4	20.0	40.4
'07(19)	100.0	24.0	32.7	20.2	23.2	20.1	45.7
'10(22)	100.0	26.1	31.4	19.3	22.5	20.1	47.0
'13(25)	100.0	27.4	35.4	21.5	18.4	18.7	50.9
'16(28)	100.0	29.0	37.9	21.9	14.9	18.3	54.5
'19(令和元)	100.0	28.3	40.3	22.2	12.8	18.6	57.1

注：2016(平成28)年の数値は、熊本県を除いたものである。

現在の要介護度の状況を世帯構造別にみると、「単独世帯」では要介護度の低い者のいる世帯の割合が高く、「核家族世帯」「三世帯世帯」では要介護度の高い者のいる世帯の割合が高くなっている（表17）。

表17 要介護者等のいる世帯の世帯構造別にみた現在の要介護度の構成割合

（単位：％）

2019(令和元)年

現在の 要介護度	総数	単独世帯	核家族世帯	(再掲) 夫婦のみの 世帯	三世帯世帯	その他の 世帯	(再掲) 高齢者世帯
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
要支援者のいる世帯	31.0	41.4	29.5	30.7	21.3	25.1	34.6
要支援1	14.7	21.5	13.4	14.6	9.5	10.6	17.3
要支援2	16.3	19.8	16.1	16.1	11.8	14.6	17.3
要介護者のいる世帯	66.4	55.7	67.3	66.6	76.5	73.5	62.9
要介護1	19.8	20.4	17.7	19.0	22.9	21.1	20.0
要介護2	20.7	16.9	20.7	22.1	23.2	24.9	20.0
要介護3	12.2	9.0	12.0	10.0	17.9	13.5	10.0
要介護4	7.5	5.9	8.1	7.6	6.6	9.5	7.3
要介護5	6.1	3.5	8.7	7.9	5.9	4.5	5.6

注：1) 「総数」には、要介護度不詳を含む。

2) 世帯に複数の要介護者等がいる場合は、要介護の程度が高い者のいる世帯に計上した。

3) 「現在の要介護度」とは、2019(令和元)年6月の要介護度をいう。

2 要介護者等の状況

要介護者等の年齢を年次推移で見ると、年齢が高い階級が占める割合が上昇している。2019（令和元）年の要介護者等の年齢を性別にみると、男は「80～84歳」の23.2%、女は「90歳以上」の28.6%が最も多くなっている。（図25、26）

図25 要介護者等の年齢階級別構成割合の年次推移

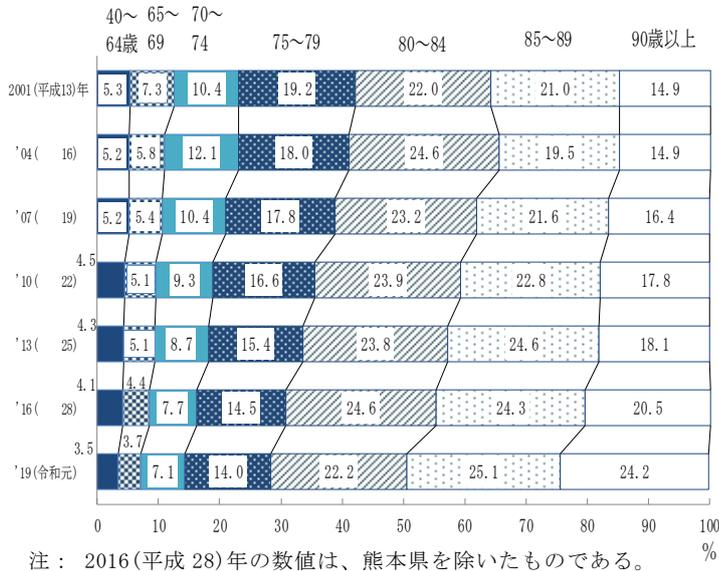
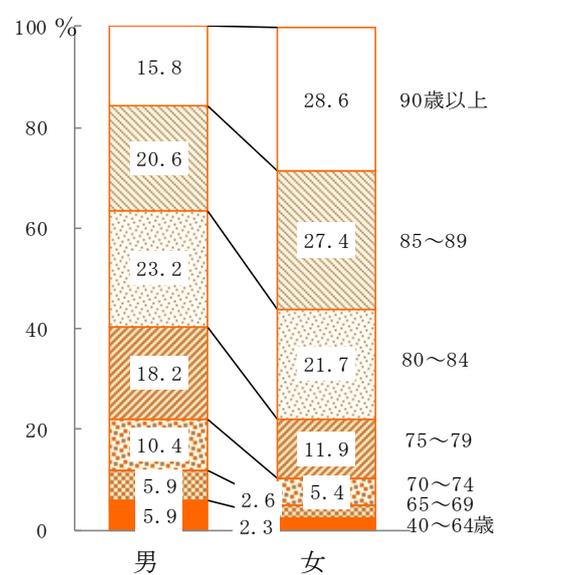


図26 性別にみた要介護者等の年齢階級別構成割合



介護が必要となった主な原因を現在の要介護度別にみると、要支援者では「関節疾患」が18.9%で最も多く、次いで「高齢による衰弱」が16.1%となっている。要介護者では「認知症」が24.3%で最も多く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」が19.2%となっている。（表18）

表18 現在の要介護度別にみた介護が必要となった主な原因（上位3位）

(単位:%)		2019(令和元)年				
現在の要介護度	第1位	第2位	第3位			
総数	認知症	17.6	脳血管疾患（脳卒中）	16.1	高齢による衰弱	12.8
要支援者	関節疾患	18.9	高齢による衰弱	16.1	骨折・転倒	14.2
要支援1	関節疾患	20.3	高齢による衰弱	17.9	骨折・転倒	13.5
要支援2	関節疾患	17.5	骨折・転倒	14.9	高齢による衰弱	14.4
要介護者	認知症	24.3	脳血管疾患（脳卒中）	19.2	骨折・転倒	12.0
要介護1	認知症	29.8	脳血管疾患（脳卒中）	14.5	高齢による衰弱	13.7
要介護2	認知症	18.7	脳血管疾患（脳卒中）	17.8	骨折・転倒	13.5
要介護3	認知症	27.0	脳血管疾患（脳卒中）	24.1	骨折・転倒	12.1
要介護4	脳血管疾患（脳卒中）	23.6	認知症	20.2	骨折・転倒	15.1
要介護5	脳血管疾患（脳卒中）	24.7	認知症	24.0	高齢による衰弱	8.9

注：「現在の要介護度」とは、2019（令和元）年6月の要介護度をいう。

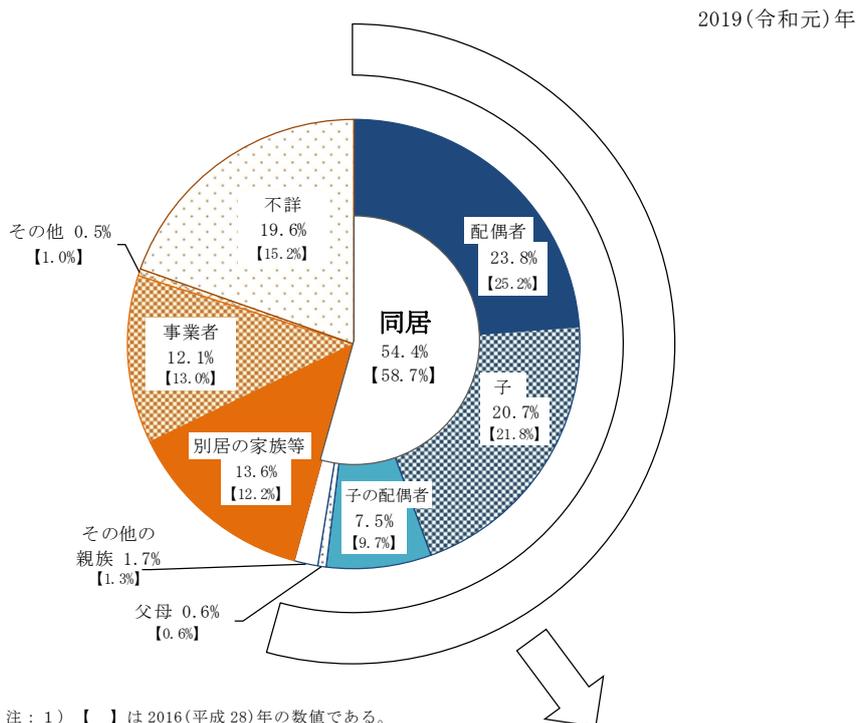
3 主な介護者の状況

主な介護者をみると、要介護者等と「同居」が54.4%で最も多く、次いで「別居の家族等」が13.6%となっている。

「同居」の主な介護者の要介護者等との続柄をみると、「配偶者」が23.8%で最も多く、次いで「子」が20.7%、「子の配偶者」が7.5%となっている。（図27）

また、「同居」の主な介護者を性別にみると、男35.0%、女65.0%で女が多く、これを年齢階級別にみると、男女とも「60～69歳」が28.5%、31.8%と最も多くなっている（図28）。

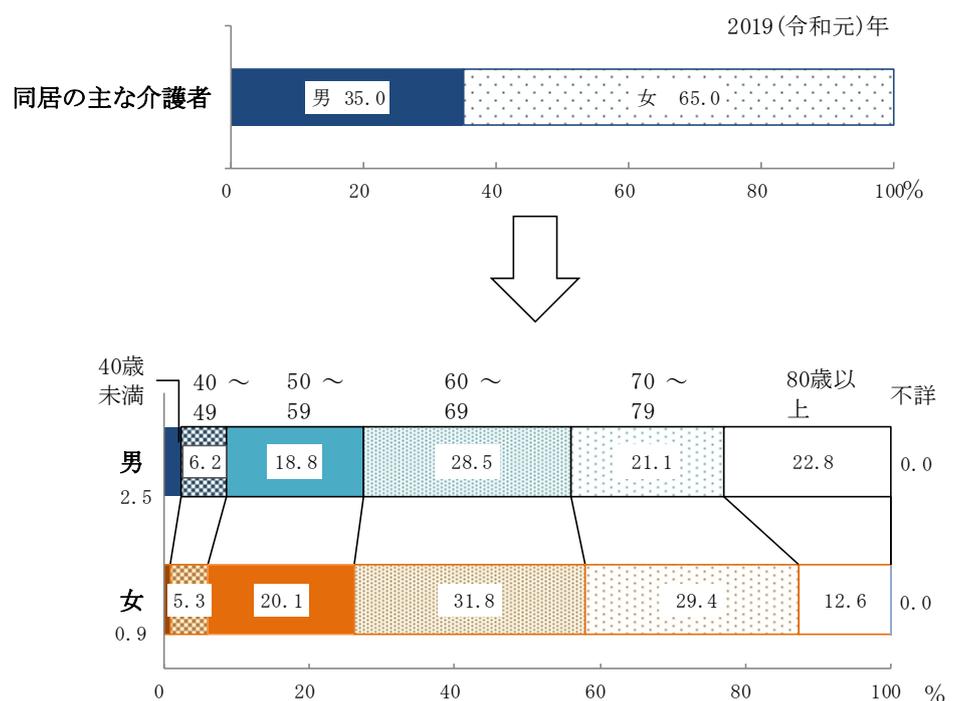
図27 要介護者等との続柄別主な介護者の構成割合



注：1) 【 】は2016(平成28)年の数値である。

2) 2016(平成28)年の数値は、熊本県を除いたものである。

図28 同居の主な介護者の性・年齢階級別構成割合



同居の主な介護者と要介護者等の組合せを年齢階級別にみると、「70～79歳」の要介護者等では、「70～79歳」の者が介護している割合が56.0%、「80～89歳」の要介護者等では、「50～59歳」の者が介護している割合が31.6%で最も多くなっている（表19）。

年次推移をみると、60歳以上同士、65歳以上同士、75歳以上同士の組合せにおいて、いずれも上昇傾向となっている（図29）。

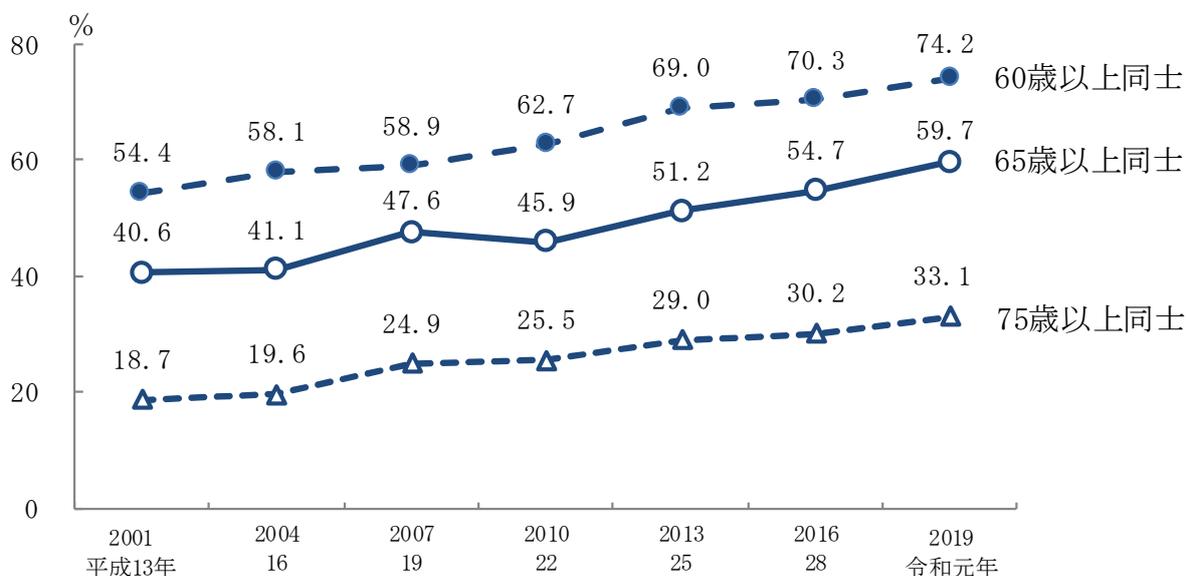
表19 要介護者等の年齢階級別にみた同居の主な介護者の年齢階級構成割合

(単位：%) 2019(令和元年)

同居の主な介護者の年齢階級	要介護者等								
	総数	40～64歳	65～69	70～79	80～89	90歳以上	(再掲) 60歳以上	(再掲) 65歳以上	(再掲) 75歳以上
総数	[100.0]	[4.1]	[4.2]	[23.7]	[42.7]	[25.3]	[97.6]	[95.9]	[83.5]
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
40歳未満	1.5	1.8	7.4	1.8	1.1	0.6	1.5	1.4	1.1
40～49歳	5.6	16.0	4.4	9.5	4.3	2.5	5.1	5.1	4.8
50～59	19.6	24.4	5.7	9.6	31.6	10.3	19.2	19.4	21.7
60～69	30.6	29.5	59.3	12.7	21.6	58.2	31.3	30.7	29.1
70～79	26.5	18.8	21.6	56.0	16.2	18.4	26.5	26.8	24.8
80歳以上	16.2	9.5	1.6	10.2	25.1	10.1	16.4	16.4	18.5
(再掲)60歳以上	73.3	57.8	82.5	78.8	62.9	86.6	74.2	73.9	72.3
(再掲)65歳以上	58.8	39.2	65.9	77.1	47.5	62.8	59.4	59.7	57.2
(再掲)75歳以上	30.2	18.5	7.7	40.2	38.6	12.4	30.5	30.7	33.1

注：「総数」には、主な介護者の年齢不詳を含む。

図29 要介護者等と同居の主な介護者の年齢組合せ別の割合の年次推移

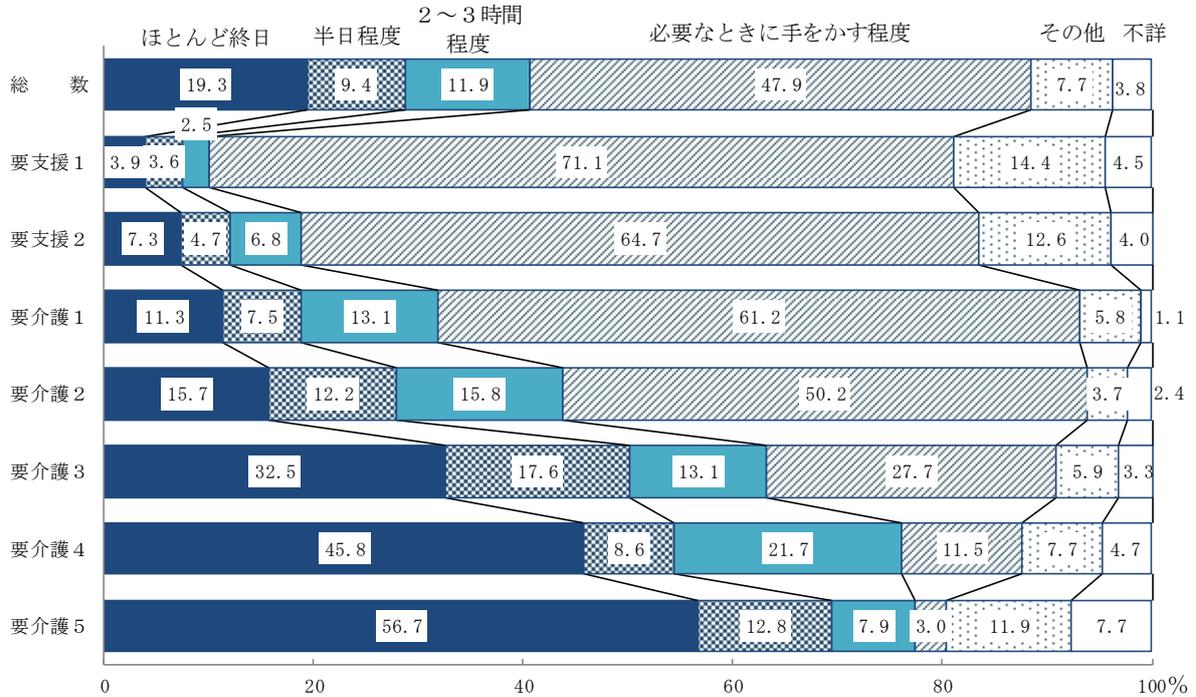


注：2016(平成28)年の数値は、熊本県を除いたものである。

同居の主な介護者の介護時間を要介護度別にみると、「要支援1」から「要介護2」までは「必要なときに手をかす程度」が多くなっているが、「要介護3」以上では「ほとんど終日」が最も多くなっている（図30）。

図30 要介護度別にみた同居の主な介護者の介護時間の構成割合

2019（令和元）年

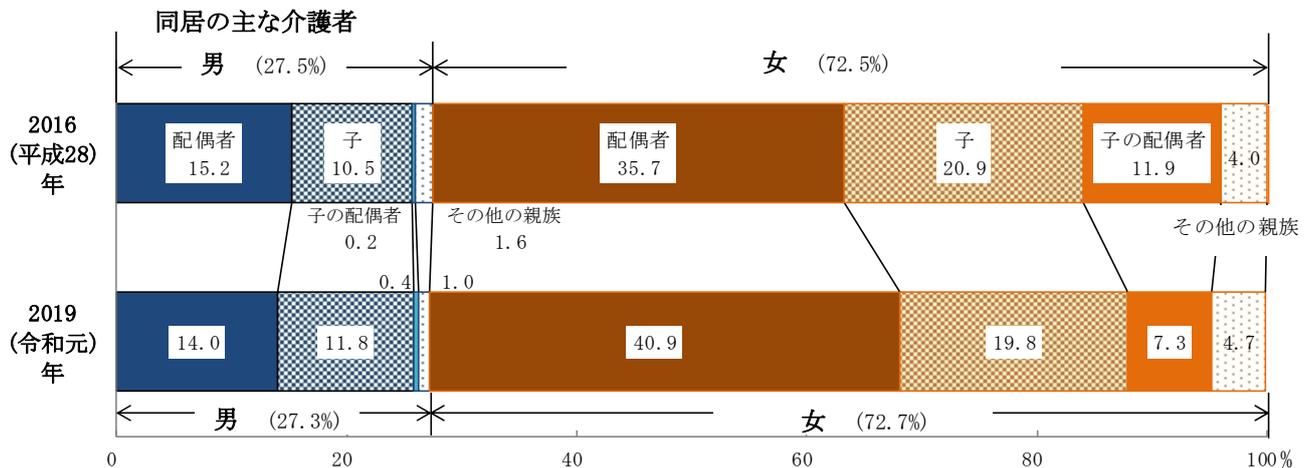


注：「総数」には要介護度不詳を含む。

介護時間が「ほとんど終日」の同居の主な介護者は、「男」が約3割、「女」が約7割となっている。

続柄別にみると、女の「配偶者」が最も多く、次いで女の「子」、男の「配偶者」の順となっている。（図31）

図31 介護時間が「ほとんど終日」の同居の主な介護者の要介護者等との続柄別構成割合



注：1）「その他の親族」には「父母」を含む。

2）2016(平成28)年の数値は、熊本県を除いたものである。